

リーダーシップ・寄り添う事業（地域とともに考える）
■2021年度長野県地域福祉コーディネーター総合研修の実施

令和3年度
事業報告

【取り組み概要・重点項目】

- ①住民とともに地域課題の発見や社会資源の開発等の地域福祉コーディネーター機能の強化。
- ②各機関や団体、実践者等が出会い、実践的なネットワークや仲間づくりができるプログラムの実施。

【実施内容】

県と共同で本会主催講座19講座、県生涯学習推進センターや県企画振興部のプログラムを併用して選択講座20講座を開催した。

主催講座①「地域福祉の方向性と地域福祉コーディネーターの役割」

各福祉分野の実践を共有し、地域づくりの必要性やコーディネーター機能について確認した。

令和3年8月12日（木）13：00～16：40 オンライン

参加者：73名

児童分野、高齢分野、障がい分野から実践や協働、地域福祉コーディネーター機能への期待について共有。協働することにより地域に寄り添った支援ができることを学べた。

主催講座②「地域共生社会推進長野フォーラム」

福祉分野以外の地域共生の視点や実践を学び、分野を超えた協働による地域づくりについて学んだ。

令和3年12月14日（火）13：00～16：00 オンライン

参加者：310名



主催講座③「「あったらいいな」を発見・創造しよう！」

まいざび研修と合同で開催することで、個別ケースを通じて、地域にある個別課題や社会資源を発見・発掘する力を養った。

令和4年3月16日（水）10：00～16：00 オンライン

参加者：37名

主催講座④「ファシリテーション・ングラフィックの取得」

ファシリテーション・ングラフィックの手法や参加を促す会議方法を学び、住民が主役になるコーディネーションについて考えた。

令和4年2月24日（木）10：00～16：00 オンライン

参加者：25名



主催講座⑤「感染予防Play！ファシリテーター養成講座」

コロナ禍でサロン等の地域活動者を後押しするプログラムをそれぞれの地域でも実施できるように人材養成を行った。

令和3年9月2日（木）10：00～17：00 オンライン

参加者：21名

主催講座⑥「まちづくりボランティアフォーラム」

社会教育分野を中心に、地域づくりに関わる実践を共有し、協働の目的の確認や各地域におけるコーディネーター力の強化を行った。

令和4年2月5日（土）10：00～18：30 オンライン

参加者：118名

主催講座⑦「コミュニティソーシャルワーク強化研修」

個別課題や地域課題の発見や相談援助技術等のソーシャルワークについて学び、地域福祉コーディネーター機能の強化を行った。

令和3年9月1日（水）→9月3日（金） オンライン 参加者：68名

主催講座③「地域に踏み出す一歩講座」

演習や社協職員の実践報告を通じて、地域へのアプローチや地域福祉の意味について考えた。

令和3年9月7日（火）13：00～16：00 長野市生涯学習センター、オンライン

参加者：76名

地域づくり部門に異動になり、どうやって地域にアプローチしていいかわからなかったが、この研修で色々な視点を学ぶことで自分らしいアプローチ方法を学べた。

主催講座④⑤「まちあるきワークショップ」

実際に地域を歩き、地域の強みや課題の発見方法等を学んだ。

④ 令和3年11月6日（土）10：00～15：00 中野市中央公民館 参加者：35名

⑤ 令和3年10月3日（日）10：00～15：00 中野市豊田文化センター 参加者：30名

主催講座⑥「ボランティアの基礎理解とボランティアコーディネーション」

ボランティア活動の意義やボランティアコーディネーションの手法を学び、住民主体の地域づくりを学ぶ。

令和3年12月3日（金）14：00～15：00＋オンデマンド配信 松本市社会福祉総合センター

参加者：32名

人数が少なく、ケース検討の場がなかったので学びが多かった。事例を持ち寄って共有したことで、他の地域状況や「悩んでいるのは自分だけではない」とわかって良かった。

主催講座⑦「住民参加を促すボランティアコーディネーションとケース検討」

具体的なケースを基にボランティアコーディネーションやケース検討方法について学ぶ。

令和3年11月11日（木）10：00～16：00 安曇野市社会福祉協議会 明科支所

参加者：16名

主催講座⑧⑨⑩「生活支援体制整備事業と生活支援コーディネーターの活動について」

県内の実践を共有し、地域活動や生活の意味を考え、生活支援コーディネーターの役割や実践について考えた。

⑧ 令和3年7月27日（火）10：00～16：00 長野県自治会館、オンライン

令和3年7月30日（金）10：00～16：00 宮田村村民会館、オンライン

参加者：152名

⑨ 令和3年10月20日（水）13：00～16：15 キッセイ文化ホール 参加者：95名

⑩ 令和4年3月18日（金）14：30～16：30 オンライン 参加者：176名

主催講座⑪⑫⑬「コーディネーターサロン（地区別）」

3地区でコーディネーターや実践者等が集まり、思いや課題等を共有し、明日から頼れる実践的なネットワークづくりを行った。

⑪⑫ 令和3年11月24日（水）13：30～16：00 上田市豊殿地区自治センター

参加者：12名

⑬ 令和3年12月17日（金）13：30～16：00 安曇野市ふれあいホール 参加者：19名

⑭ 令和3年12月10日（金）13：30～16：00 伊那市くぬぎの杜 参加者：15名

【成果・今後へのチャレンジ】

- ① 延べ1,310名の参加があり、各福祉分野の連携や地域福祉コーディネーター機能の強化を行うことができた。
- ② どの研修においても参加者同士で情報交換等の交流できるプログラムを行い、実践的なネットワークづくりに寄与できた。
- ③ さらに地域福祉コーディネーター機能を強化するために、他分野が参加しやすいプログラムの準備や住民主体の地域づくりをするコーディネーター機能強化のプログラムを準備したい。

寄り添う事業（地域と共に考える）

■ コロナでもつながる取り組みへのサポート

【取り組み概要・重点項目】

- ① コロナ禍でのつながりの維持のために、それぞれの活動に応じた感染症対策を考える機会の創出
- ② 地域活動の継続していくための工夫や対策の情報提供

コロナ禍における、サロン活動や住民主体の取り組みが制限されて2年目となる。住民活動の継続、繋がりを作れる活動を支援していく。

【実施内容】

① 「感染症予防Play！」ワークショップ・ファシリテーター養成

- ファシリテーター（以下、FC）養成講座の実施
養成講座 2回 開催
養成ファシリテーター 56人 養成
等運営の各地でワークショップの実施と住民活動サロンの運営の相談に対応する。
 - ・ FC専用のSNSグループ作成し、ワークショップ運営の協力、実践情報共有を行う。

- ワークショップ開催と県内FCサポートの実施
（長野県長寿開発センターと協働し、県内各地で開催）
 - ・ 住民活動再開や継続への判断材料となり、サロン運営の工夫や見守りなどの活動への一助になった（参加者感想）



「**感染症予防Play！**」は、具体的なケースを通じ、感染症対策をみながら考え、感染症対策の正しい知識を 医師奥先生 の解説を通じて学び、それらの活動場の感染予防策を考えることを目的にするワークショップ。
NPO法人イシュープラスデザインが作成したプログラム
<https://issueplusdesign.jp/project/coronaplay/>



- 市町村協会のボランティア活動支援
- 感染症対策の勉強会「感染症Play！」等実施
 - ・ 消毒やグローブ、体温計等の感染対策用品の提供や貸し出し
 - ・ オンライン等の機材貸し出し、捜査の補助
 - ・ 個別の相談やサロン等活動内容等の相談や助成金相談等
- 地域活動の課題
 - ・ 住民を集めて実施する企画実施判断の難しさ
 - ・ 心身の健康状態の低下 参加の意欲や体力の低下
 - ・ 行事中止が頻き、再開のタイミング困難、なくなる活動もある。

- コロナ禍での活動からの気づき・良かった点
 - ・ 人と人とのつながりの大切さを再確認
 - ・ これまでの活動の意味合いや大切に気づく

【成果・今後へのチャレンジ】

- #1 住民活動のサポートのバリエーションや事例等の情報を活動の意欲も含め提供していく
- #2 住民活動やつながりを切らないために、活動している市町村協や住民団体からの相談や支援体制を検討する



つながる事業

■ 長野県災害時支援ネットワークへの参画

【取り組み概要・重点項目】

- ① 災害時に行政・社会福祉協議会・NPO等の三者連携をスムーズにするための役割を果たし、被災者支援・被災地支援の活動を支援するために、平時から顔の見える関係づくりを行う。
- ② 市町村域の災害支援ネットワーク構築の支援を行う。

【実施内容】

1 幹事会への参加

長野県NPOセンター、長野県生活協同組合連合会、長野県共同募金会、長野県長寿社会開発センター、日本青年会議所北信信越地区長野ブロック協議会、日本労働組合連合会長野県連合会、長野県弁護士会、信州大学地域防災センターと本会の計9団体が構成された幹事会へ参加（12回）。フォーラムの企画検討や情報交換を行い、災害時にもいきるネットワークづくりを行った。

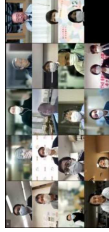


誰もお客様にならない会議。全員が積極的に発言することで関係性が深まる。

2 研修会の企画

「災害救助法をざっくり学ぶ」をテーマに県内の災害支援関係者向けの研修会を開催。

令和3年11月10日（水）17：30～18：30 オンライン



災害支援の基本となる法律について改めて学ぶことができた。ゆるく話を開けたので、こんな学習の機会がたぶんあればいいと思った。

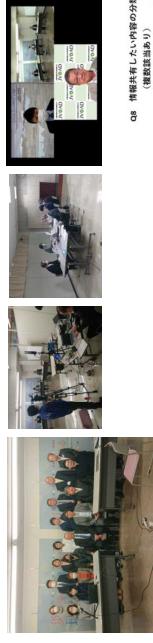
【成果・今後へのチャレンジ】

- ① 幹事会だけのつながりではなく、協定や講座の合同開催等、平時から活躍するつながりとしてカタチにできた。
- ② 令和元年東日本台風災害の支援を経て、行政等からの本ネットワークに対する期待が高まった。参画団体とともに改めて、本ネットワークの役割について協議していきたい。

4 キッチンカー事業者へアンケート実施

緊急時にスムーズに避難所や在宅避難者の副食を支援できるよう、平時からのネットワークの必要性等についてアンケートを実施

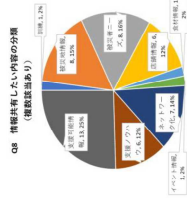
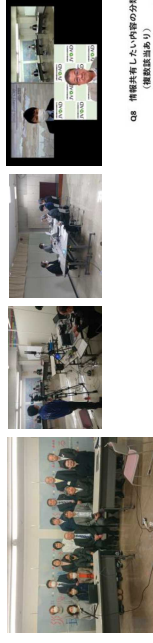
送付数：693件 回答数：134件



3 第4回災害時の連携を考える長野フォーラムの開催

三者連携を推進し市町村域や各分野のネットワークづくりの後押しとして、県内外の災害支援関係者を対象にフォーラムを開催。全体会では行政の動きを中心に学びとともに行政と民間の連携について考えた。分科会では、テーマごとにあつまりそれぞれ支援の在り方等について共有した。

令和4年2月15日（火）13：30～16：30 オンライン 参加者：●●●名



つながる事業

■損害保険ジャパン株式会社長野支店長野法人支社との連携

令和3年度
事業報告

【取り組み概要・重点項目】

- ① 被災者に寄り添った支援をするために、企業関係者へ災害支援の参画応援をする。

1 令和元年東日本台風時の災害ボランティアセンター

運営課題

- (1) ボランティア活動者を送迎するバスの確保
- (2) 災害VCの敷地確保や駐車場確保
- (3) 大工や重機等の技術系支援者との連携
- (4) 資機材の確保
- (5) 企業関係へのアプローチが弱い
etc

2 損害保険ジャパン株式会社からの提案

災害ボランティアセンターの支援として、「災害ボランティア活動支援プロジェクト」に社員が参加していた。災害が多発するなかで、さらに一歩進んだ社会貢献を検討している。また、様々な企業が顧客になっているため、その強みを活かした支援を検討したい。

3 長野県災害ボランティアセンター応援企業ネット

(応援企業ネット)の立ち上げ準備

損害保険ジャパン株式会社からの提案により、災害時に災害ボランティアセンターを支援するネットワークの立ち上げを準備。それぞれがwin-winの関係になるよう令和4年度に向けて打ち合わせを行う。

長野県災害VC応援企業ネットの立ち上げについて

災害VC運営上の課題は、平時の地域ネットワークを構築で解決できると考えます。特に優秀な人材、有益な人材、広範なネットワークを持つ企業との連携は、被災者の早期生活再建に繋がること多いと考え、災害時の応援ネットワークを立ち上げたいと考えています。

長野県災害VC応援企業ネットの概要

名 称： 長野県災害VC応援企業ネット【応援企業ネット】

主 催： 社会福祉法人長野県社会福祉協議会

損害保険ジャパン株式会社

協 力： 長野県●●部

事務局： 損害保険ジャパン株式会社（長野支店）

構成員： 災害VC支援にご賛同いただける企業

→長野県社会福祉協議会と参加企業とで連携協定の締結を想定しています

活 動： 被災者支援に関して参加企業が連携・支援できることを検討し、災害発生時の協働体制を構築します。

【中略】

・災害VC運営に関する研修会・職員交流会（任意参加）

・災害VC運営スタッフ候補者の人材育成 など

【災害発生時の応援メニュー】の検討・作成

・災害VCへの人的支援、社員等への災害ボランティア活動への参加の呼びかけ、社員の参加支援 など

損害保険ジャパン様の提案書から抜粋

【成果・今後へのチャレンジ】

- ① 長野県災害時支援ネットワーク機能と整理しつつ、企業の「やりたい」「できるかも」を応援できるネットワークにしていきたい。
- ② 災害支援をきっかけに平時から社協と企業のそれぞれの強みを活かした関係づくりを進めていきたい。

つながる事業（多様な主体と協働したプラットフォーム）

■ 信州くらしの支えあいネットワーク

【取り組み概要・重点項目】

- R2年度はコロナ禍において各団体の活動の休止等が聞かれた。今年度は、①各団体活動の現状ニーズや活動の状況の把握
- ②本ネットワークとして情報提供と実施活動サポートを行う。

【実施内容】

- ① 団体活動アンケートの実施 アンケート部抜粋掲載

コロナ禍での活動の継続の様子

- ・協力会員（支援者）が、普段からの見守りや生活課題のつなぎ役となる
- ・配食など地域の現状ニーズにマッチしたことで、事業として安定している
- ・感染対策の徹底で安心感、混乱なく実施できた

その他

- ・活動を知り新たなサポーターが増えた
- ・地域の広報紙等へ活動が紹介され、周知に役立った

活動内容についての課題

- ・現状のニーズをすべて対応することは、人員的にも難しい
- ・ニーズに合わせたサービス内容の線引きが難しい
- ・これまで以上に感染症対策をするため、消耗品の金銭的負担が大きくなる

サポーターの課題

- ・高齢化や後継者の問題 担い手不足
- ・認知度がなく、サポーターを集めにくい

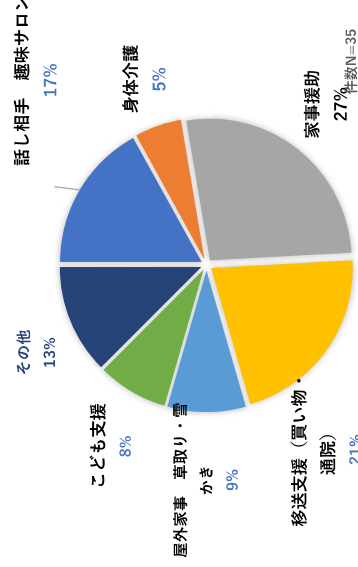
- ② 情報発信 アンケート内容の集計、勉強会の情報提供、コロナ対策情報提供

移送に関する勉強会（共催事業）

1月15日「これからの移動支援、外出支援を考えるフォーラム」
NPO法人全国移動支援ネットワーク

1月19日 伊那市「買い物移動支援地域づくりネットワーク」会議

- 登録団体：35団体（昨年より活動中止▼3団体）
- 各団体の活動内容



【成果・今後へのチャレンジ】

- # 1 地域課題と各団体の活動状況の把握と情報共有を継続し本ネットワークの活用を検討していく。
- # 2 圏域やテーマごとに、活動や学びの機会を模索する。

つながる事業（多様な主体と協働したプラットフォーム） ■ 社会福祉法人等のネットワーク化による協働事業

令和3年度
事業報告

【取り組み概要・重点項目】

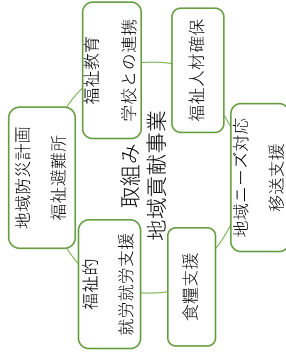
- ① 県内のモデル地域の取り組みを中心に、法人連携事業における地域貢献事業の支援を行う。
- ② 県内外事例の収集と、事務局を担う団体同士の連携や学ぶ機会を設けていくことで各地での協働事業を推進する。

平成28年の社会福祉法（昭和26年法律第45号）改正により、法人規模にかかわらず「地域における公益的な取組」の実施が責務化される。

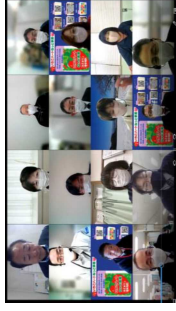
【実施内容】

① 県内のモデル地区現状把握・情報提供

- ・長野県広域食糧支援 フードバンクトリムむすびや
 》広域食糧支援 就労支援
- ・上田市社会福祉法人連絡会
 》食糧支援 大学ボラ授業受入れ
- ・箕輪町社会福祉法人連絡会
 》地域防災 福祉教育 他団体との連携
- ・安曇野市社会福祉法人連絡会
 》福祉教育 地域ニーズ対応
- ・伊那市社会福祉法人連絡会
 》福祉教育 他団体と連携 フォーラム開催
- ・東御市社会福祉法人連絡会
 》居場所 相談支援 地域ニーズ対応



- ② 事務局情報交流会の開催
 情報交換・現状報告
 栃木県社いこちこネットワークの取り組み事例より学ぶ
 令和4年2月20日 オンライン



福祉法人 + α 多様な連携事例
 いちごSOSゲーム（福祉課題を考えるゲーム）
 福祉×まちおこし×就労支援
 居場所×多様なネットワーク

〇社会福祉法人等のネットワーク化による協働推進に関連するアンケートの実施

▶ 回答数 20/77市町村

- ・複数の社福祉法人がある地域では、連携する活動設定や調整機能が必要である。
- ・すでに地域貢献事業として取り組んでいる大きな法人もあるため、新たな連携構築より、既存のネットワーク等を見える化することが事業の意識付けにもなる。
- ・地域団体・学校とも連携していくことで、地域課題やニーズ見合う事業となり、地域に開かれた法人の在り方を模索できる。
- ・単独社福祉法人の町村では、地域サロン運営や有償サービス等の事業を実施しているところが多い。
- ・単独法人では、コロナ対策や人員確保など対応困難な面もあり。

【成果・今後へのチャレンジ】

- #1 各地の取組み事例を共有していくことで、地域性に合わせた協働事業を支援・コーディネートしていく。

つながる事業（多様な主体と協働したプラットフォーム） ■ 福祉教育の推進におけるプラットフォーム ー1）

令和3年度
事業報告

【取り組み概要・重点項目】

- ① 福祉教育のプラットフォームづくりとして、福祉教育フォーラムを開催し、県内の福祉教育関係者と学びの機会を作る。圏域のネットワークの構築を進める。
- ② 小中学生ボランティア新聞等、福祉教育の啓発や情報発信を行う。
- ③ P R 事業の活用で、福祉の訪問講座を実施。

【実施内容】

①ー1 第1回福祉教育推進セミナー

令和3年5月31日（月）13：30～15：30 オンライン

参加者：67名（社協、NPO/当事者団体、公民館関係者など福祉教育実践者）
 内容：福祉教育本質を考える・実践報告 エリアごとの情報・意見交換会を実施する。

- ⇒ 福祉教育の域の確認の場となる
- ⇒ 地域性やテーマ性を持った新たなネットワークの広がり



ふっころプラン
 「共に生きる」を発信する

①ー2 福祉教育オンラインカフェ

令和3年5月～12月 7回開催 オンライン開催

参加者：のべ104名

内容：学び＋福祉の実践を互いに学び、気軽に相談しあえる場づくり

⇒ 福祉教育メニューリスト作成と活用における情報共有

⇒ プログラム立案や実施時の協力体制の構築

⇒ ふくし教育を通じての関係者の広がりが見られる



参加者の関心ごとに合わせたテーマを各回設定
 オンラインカフェ

①ー3 全社協福祉教育推進委員研修

日時：令和3年9月（事前オンライン研修＋対面研修）

内容：研修会コーディネートと福祉教育推進員研修実施

参加者：10名（推薦受講者）運営支援 3名

⇒ 全社協認定の福祉教育推進員が10名追加となる。

⇒ エリアごとの連携体制の構築を図ることで、地域や現状に即した福祉教育実践を協力し合えるようになる。

つながる事業（多様な主体と協働したプラットフォームホーム） ■ 福祉教育の推進におけるプラットフォームホーム ー 2 ー

令和3年度
事業報告

②小中学校ボランティア新聞「やまびこだより」発行

日時：年2回発行（赤い羽根共同募金活用）

内容：前期「パラスポーツ」後期「子どもの権利条約」

⇒県内全小中学校（約600校）児童館・公民館等合計1400ヶ所へ送付
⇒信濃教育会と協働制作し、教育現場のニーズにも合わせながらテーマ選定を行う。教育現場教員へ福祉教育の狙いや情報提供。



紙面解説と紙面の音訳CD
mp3形式でも作成
県社協ホームページでも掲載



③福祉の訪問講座実施

福祉の仕事への理解を促進するため、学校や企業等へ講座を開催。



令和3年度（3/15現在） 73講座 のべ 4,943名 実施
協働講座 4件 6講座 ※コロナにより9講座中止



・福祉のイメージがガラッと変わった(中3男子)
・福祉関係の職業についていいなと思った(中3女子)
・改めて「介護ってすごいな」と思った(高3女子)

「ふくしニア」
マイナビ進学LIVEに出展し、
介護体験と進路相談を実施

【今後へのチャレンジ】

#1 福祉教育実践者を学校や社会教育分野とも連携して推進していく
為に、実践者側の学びの場や実践報告の機会を持つことを継続する。
#2 「ふくし」の学びや実践事例など、情報発信や取り組み事例の
共有できるプラットフォームを充実していく。

つながる事業（多様な主体と協働したプラットフォームホーム） ■社会教育と地域福祉の学びのプラットフォーム

令和3年度
事業報告

【取り組み概要・重点項目】

①地域福祉課題に対し、多様な担い手や企業団体がタッグを組み、信
州から福祉・介護分野のめりめりを拓くイノベーションを進めていくこ
とが期待されている。
そこで、若者たちのアイディアを積極的に取り入れ、福祉介護の魅力
を発信し、学びとイノベーションを促進していく取り組みを実施する。

○ 2021信州共生みらいアイデアコンテスト 実践ステップ編

～福祉のイノベーション「ふくし×若者×企業団体」～

7チーム
(高等学校5チーム、
高等専門学校2チーム)

企業団体等との連携

長野県在宅福祉機器協議会・長野県作業療法士協会・
信州大学・豊野高等専修学校・アスロ工業株式会社
・NPO法人ユニバーサル・サポーターズわ
NPO法人ヒューマンネットなどの・上田市



取り組みは、県社協ホームページ内特設ページ公開中
<https://onl.la/5qacNes>



⇒実証に向けた取り組み・新たなチャレンジ展開を「ふくし
×若者×企業団体」としてSNSを活用し、広く発信した。
⇒企業や地域団体との協力関係構築となる。
⇒次年度のコンテストに向けた、推進チーム（民間企業・専
門職団体・学術機構）を依頼する。



○ 第2回 長野県介護技術コンテスト（ケアコン）

介護の仕事を目指す学生や現場で働いている介護職員が「利用者さんへのレク
リエーションと介護を考えよう」をテーマに介護技術を競いました。

48チームがエントリー

高齢者・障がい者を支援する現職者27チーム
介護福祉士を目指して学ぶ学生の21チーム



信州ふっころフェスティバル内で、長野県
知事等から表彰コメントをいただきました。
コンテストの取り組みもオンラインで配信。

【今後へのチャレンジ】

#1 多様な分野の若者へ「ふくし」への関心を広げていけるような
取り組みを計画していく。
#2 次年度のコンテストに向けた、推進チーム（民間企業・専門職
団体・学術機構）を構成し進めていく。

つながる事業

■ 長野県 まちづくり・ボランティアフォーラム 2021

令和3年度
事業報告

【取り組み概要・重点項目】

- ボランティア・地域福祉・社会教育の分野をこえた「まちづくりを学ぶ場」の創出
- 未来を見据え、身近なまちなかで学び、どきどきわくわくを発見し、手づくりで実践するボランティア・スピリットの確認と協働の輪を広げる、学びと出会いの場の実践



長野県 まちづくり・ボランティアフォーラム2021
～学びから実践へ 協働で取り組む“まちづくり”～
日本地域福祉学会 関東甲信越静部会地域福祉セミナー

○参加者 延べ150名

日時：2021年2月5日（土）10時～18時半

会場：オンライン開催

主催：社会福祉法人長野県社会福祉協議会

共催：日本地域福祉学会関東甲信越静部会

県生涯学習推進センター 県社会教育委員連絡協議会

後援：長野県、県民生委員児童委員協議会連合会、
県生活協同組合連合会、県NPOセンター、長寿社会開発
センター、信州くらしの支えあいネットワーク（順不同）



○フォーラム内容（基調講演）

天野 和彦 氏

福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任教授

～東日本大震災から10年 復興と地域づくり、

持続可能な未来をつくる学びの力～

日本の歴史、地域の歩みから、地域の持つ大きな力を捉え、ボランティアや地域活動、住民自治の価値を考え、子ども達のために持続可能な未来を考えよう

「imagine」と「愛」

人は誰だって幸福に生きる権利がある。「未来の子供たちに何を残すのか」を問い考え続ける地域実践を。

○フォーラム内容（分科会）6つのテーマ別分科会

- 公民館とボランティアセンターの協働
～つなぐ・つながる おもしろさの発見～
- 誰一人取り残されない地域づくり
～災害時に支え合える仕組みをみんなでつくる～
- 地域活動・ボランティア活動を考える
～コロナ禍のピンチをチャンスに～
- 子どもの居場所をつくる、支える
～お店、ボランティア、公民館・子どもを中心に
広がるつながり～
- 学びと出逢いからはじまる豊かな地域づくり
～社会教育、福祉教育でヒトつながる地域が広がる
- 若者の自立を支える
～児童養護施設と地域がつながる・見守る仕組みをつくる～



○クロージング（まとめ）

～垣根をこえて、協働を進めていくためには～

これからの社会に何を残すのか。地域活動や自治活動、ボランティアな活動が意味する価値について振り返る。

»分野は異なっても、様々な活動から共有された物語にある「学び（気づき）」⇒「思い」に変わり⇒「共感」が生まれ⇒「行動」に移るプロセスを大切にしながら協働していくこと。



【成果・今後へのチャレンジ】

協働することが目標ではなく、手段として誰かのため、何かのために協働することが大事。地域福祉と社会教育は、お互いアプロロチは違うが、最終的には同じ目標に向かっていることが確認できた。